

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2007年9月号 (<http://www2.iee.or.jp/~ias/kiji2007.htm>)

編修長に就任して



編修長 林 洋一

深尾先生の後任として6月より編修長を務めております。編修長補佐の大石先生をはじめ、D1～D3グループの主査、副主査、幹事の皆様にご協力いただき、何とか大役を果たせればと考えております。

深尾先生からは予想以上に沢山の宿題をいただいております。その内容は、産業応用部門ニュースレター2006年4月号「電子投稿・電子査読システム運用に伴う論文委員会の役割の見直しについて」で紹介されています。電子投稿・査読システムについては、運用上の問題点を1つ1つ改善してシステムの完成度を上げる作業を進めるほかに方法はありません。問題点に気づかれましたら、学会事務局あるいは私までお知らせいただければ幸いです。

引継ぎ事項の中で、査読の不公平感・不満の解消と査読期間の短縮のための対策が最重要課題と考えております。査読の基本ルールを査読者はもちろん投稿者の方にも十分ご理解いただくために、査読マニュアルの周知徹底を図ります。また、査読マニュアル変更事項、査読上の具体的問題や考え方などについて、ニュースレターのコラムやホームページにて逐次お知らせしたいと考えております。電子投稿・査読の導入により、論文委員が直接顔を合わせて議論する場が減っております。産業応用部門大会での意見交換会は大変貴重な機会ですので、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

論文誌掲載料が高すぎるとのご意見はごもっともです。D部門の2006年度の決算は約1,000万円の黒字になりましたが、論文誌掲載料の貢献が大きい状況です。現在、学会全体で、「電気学会と書類のアーカイビングと電子図書出版・構築プロジェクト」が発足し、技術報告や研究会資料などの知的財産を電子ファイル化して有効利用を図るための具体的な検討が精力的に進められております。その進展により、論文誌のみならず技術報告や研究会資料の二次利用により、新た

な収入源が生まれれば、論文誌掲載料の引き下げや無料化も視野に入ってくるのではないかと期待しております。

いずれにしても、論文誌のみでなく、技術報告や研究会資料の二次利用を真剣に考える段階にきております。電子ファイル化とオンデマンド出版により、採算は大幅に改善される予定ですので、技術委員会では、タイムリーな調査専門委員会を設置して有用な技術報告を発行していただければと思います。研究会資料の二次利用も重要で、論文誌の半導体電力変研究会特集号などの取り組みのみならず、キーワードでの検索機能の強化やキーテクノロジーに関する論文や研究会資料を合本して解説をつけるなども可能です。このような取り組みは、論文委員会よりむしろ技術委員会が中心となっていくのが効率的と思われる。その意味でも、技術委員会でウォッチすべき研究領域やキーテクノロジーを再確認していただき、できれば継続してフォローできる担当者を決めておくことも必要ではないでしょうか。

編修関係の話題にもどしますと、論文誌の役割や意義をもう一度再確認する必要があるように思います。つまり、論文誌として読者が期待する内容およびレベルについて具体的なイメージを確立して、会員すべてが共有するのが基本と思われる。

最後に、最近の強く感じることは、私自身学内でのいろいろな業務の負担が益々増えていることです。私学のみならず、国公立大学あるいは企業でも状況は同じと思われる、従来のように学会活動を最優先にすることは難しくなりつつある状況です。互いにボランティアベースの活動であることを再認識し、特定の人に負担が集中しないように注意するとともに、作業の一層の効率化を図る必要性を痛感します。

いろいろな意味で、皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。